



なががわ ようじ  
中川 洋児氏  
SYD社長

95年(昭和70)日大経済、同年協和銀行(現りそな銀行)入行。94年協和埼玉銀行(同)本社監査二部主任監査役、97年あさひ銀行(同)神奈川支店副支店長、02年りそな銀行本郷支店営業第一部長、04年麻布支店支店長、06年SYD設立。18年ベンチャーインフレーション・ブレイズ社長。神奈川県出身、61歳。

### イノベーション起こす人育てたい

(エフジー武蔵 03・5300・5757)



「執筆のきっかけは、

「最初はこの外国人タタツを管理として養成するためのテキストをつくろうと思っていた。だがつくっていくうちに、外国人だけでなく、日本のマネージャーや管理職、経営者にも役立つのではないかと思い始めた。こうした方に読んでほしいと、日本全体をターゲットに元気にしたいと思った。ビジネスパーソンに必要な項目として経営、経費、マーケティング、財務管理の分野を取り上げた。

「実際の経営における経験と経営学の理論を組み合わせることで、紹介しています。」「アダム・スミス、マルクスを理解しようとする、何冊もの本を、一回も読まないといけない。一方、私自身が経営、経営に関する知識をどう活用してきたかというところは他の人も役立つと思います。1冊でビジネス知識、その実践も活用方法がわかるように心がけました。」「私自身、実際の経営でもどうしたビジネス理論に基づいてどうしてきたか、新しいことをやる時に当たることが多かったが、そうした経験について先人の研究して答えを出しているところが多い。その知識を先に人たちが出し答えを活用していけば、相当な力になるはずだ。」

「管理職のあり方については、『現場の職人を育てていこう』ではなくて、科学的な管理法を用いて、その結果を導かないといけない。そうした考え方を身につければいいけれども負ける。後で根拠になる数字があるから。」「日本ではマネージャーの現状について

### 『経営管理者の成功術』

「今の仕事の無理・ムネを削減すれば効率上がるが、それは前任者も言めて何十年もやってきた仕事。いまだ30年も40年も前からの仕事をやっている業種もたくさんある。必要なものもあるが、そうしたところにムネを入れて、自分で新しい線路を引き直すインノベーション、そういう生産性向上を起さないと。今の日本にはそうした人が必要なのではないか。だからインノベーションを起させる発想を持って人間にならなければいけない」と思いを込めて書いたつもりだ。」

「勉強が楽しいということを知ってほしい」と書いています。「大げさかも知れないが、日本の教育のあり方にも問題があるのかもしれない。例えば、放物線という計算式を処理するところから軌道になる。勉強しました。もっと楽しい、もっと興味を持って教えられる。日本の経済を活性化する人材が育つのであればいい。合理的な発想が導ける発想を知れば文系の人でも活用できる。」「実際の事業における外国人スタッフの育成について。」「外国人のスタッフを働いていて、日本を生活していきたくていう人がほとんどだが、彼らにインノベーションを起させる人達を育てれば、日本が元気を取り戻すことができる。でも買断できるものではないかと感じている。単なる労働者ではなく、経営者や管理職になっていく人を取り組める人材を育てたい」と書いて大げさだ。(中野 隆一)